



船橋市における対話型鑑賞教育推進事業 船橋市民ギャラリーの 対話型鑑賞教室

- 1 = 小学5年生を対象とした対話型鑑賞教育の実践
- 2 = ふなばしアートカードを使った鑑賞プログラムの実施
- 3 = 鑑賞教室のためのファシリテーターの育成

この事業をとおして子どもたちが文化芸術に親しみ楽しむ力を育みます。



船橋市民ギャラリーの 対話型鑑賞教室について

船橋市における対話型鑑賞教育推進事業である「船橋市民ギャラリーの対話型鑑賞教室」は、市内の小学5年生を対象とした図画工作科の出前授業で、「鑑賞」の単元1コマを「ふなばしアートカード」を教材としてファシリテーターのサポートと共に実施するものです。その目的は船橋市文化振興基本方針の重点プログラム「アートでつながるまち ふなばし」*の一環として、子供たちが主体的にアートに関わり、心豊かに成長するとともに、生涯にわたり鑑賞や創作活動に参加する素地を育むものであります。さらに船橋市所蔵作品を教材化した「ふなばしアートカード」を使用することで、地域ゆかりの芸術家の作品に触れる機会となり、この授業をとおして「ふるさと船橋を知る」という地域学習にもつながります。

*船橋市文化振興基本方針：船橋市の文化・芸術の振興の進むべき方向性を示すことを目的として今後5ヶ年の目標や施策をまとめたもの

授業の内容

この授業で取り入れている「対話型鑑賞」とは、作品についての情報や解釈を専門家や教師が一方向的に伝えるのではなく、鑑賞者自身の思いを尊重しグループでの対話を通して作品を味わっていく鑑賞法で、1980年代のニューヨーク近代美術館で開発された教育プログラムです。本事業ではそのメソッドを船橋市の現状に合わせて改良し、「アートカードを使った対話型鑑賞」の授業として実施しています。

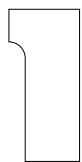
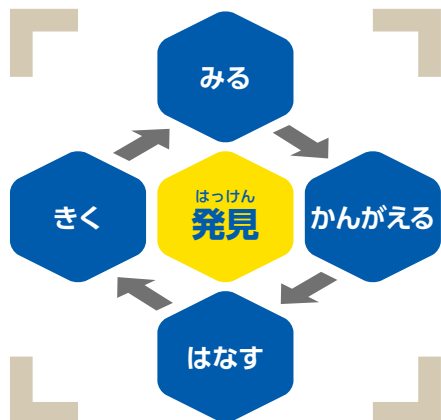
この鑑賞授業で大切なのは「作品を知る」ことではなく「作品を見る（観察する）」ことです。授業では3~4名の児童とファシリテーターとがグループになり、「みる」→「かんがえる」→「はなす」→「きく」という行為を繰り返して、作品の中から自分なりの「発見」をします。



対話型鑑賞教室では文化芸術への関心を高めることを目標としていますが、これまでの実践を通してそれだけでない効果も認めることが出来ました。それは学習指導要領が目標とする「主体的、対話的で深い学び」を実現するためのアクティブ・ラーニングの実践であり、「話す、聞く、共感する」体験によるソーシャルスキルの獲得でもあります。「みる、かんがえる、はなす、きく→発見」のサイクルを身につけることで、観察力、批判的思考力、言語能力、自ら問い考え続ける力などが身につきます。授業は45分と短いものですが、この時間での児童の成長は目を見張るものです。そして、その学びを学校現場で継続することによって、社会を生き抜くために必要な資質・能力を獲得することができるでしょう。これが「アートによる教育支援／人材育成の実践」です。

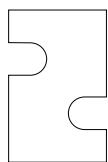
授業の目的

船橋市民ギャラリーの対話型鑑賞教室の 特徴



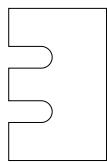
対話型鑑賞という手法

対話型鑑賞とは、グループのなかでの対話を通して、美術作品に対して自分なりの意味や価値を見出し自分の言葉で語る活動です。授業では3~4名の児童とファシリテーターとがグループになり、「みる」→「かんがえる」→「はなす」→「きく」という行為を繰り返して、作品の中から自分なりの「発見」をします。



オリジナル教材ふなばしアートカード

「ふなばしアートカード」は、船橋市所蔵作品から船橋ゆかりの作家の作品や名画など44点をポストカードの大きさのカードにした、オリジナルの美術教材です。



ファシリテーターの存在

ファシリテーターとは、グループのみんなの**意見や思いを受け止め整理する進行役**です。対話型鑑賞教室ではこの授業のために事前に研修を受けたファシリテーターが活動しています。授業では児童の思いを引き出して言葉にすることを手助けします。



授業の 流れ

【担任の先生方との授業打ち合わせ】

授業の日程が決まったら船橋市民ギャラリーの職員と打ち合わせをします。ここでは授業内容とスケジュール、クラスで特別な配慮が必要な児童の確認、当日使用する教室の見学などを行います。授業の目的と内容を知ってもらうことで、先生には当日までに児童の関心を高めていただきます。

【授業当日】

1 授業の導入

本日の授業のポイントを話します。

対話型鑑賞とは何か？グループで話し合いの活動をするための心構えを確認します。

美術鑑賞とは「**みる・かんがえる・はなす・まぐ・発見!**」である



2 自己紹介

自己紹介をしたり好きな色や食べ物などの話をしたりして、これからの活動のウォーミングアップをします。

ファシリテーターはこの時間で、何でも話し合える雰囲気を積極的に作ります。



3 アートカード活動①「共通点を探せ！」

カードのなかの「色」や「かたち」という造形的な要素に注目して2枚のカードの共通点を探し、グループのなかで発表します。



4 アートカード活動②「つながる、物語づくり」

グループで協力し、アートカードを使った物語を作ります。一人目が「はじめ」の物語、二人目が「なか」の物語、三人目が「終わり」の物語を作ります（グループが4名の場合は「はじめ」「なか①」「なか②」「おわり」の4名で物語を作ります）。友達の話をよく聞いて自分の意見を言う活動です。





5 発表タイム：おすすめの物語

グループで作ったおすすめの物語をクラス全体の前で発表します。事前にファシリテーターと一緒に発表の方法を練習します。グループ内で相談して準備するので自信をもって発表することができます。また、クラスの他のグループの発表を聞いて、友達の視点のユニークさや多様な意見に触れ、活動の楽しさを共有します。



6 アートカード活動③「お気に入りを教えて」

最後にたくさんのアートカードのなかから今日のお気に入りをを選び、その理由を発表します。ファシリテーターの「どこからそう思う？」という質問から自分の意見を深めていき、作品に対して自分なりの意味や価値を見出し、自分自身の言葉で語ります。



7 発表タイム：今日のお気に入りの発表／授業の振り返り

残り時間にに応じて何人かの児童に「お気に入り」の発表や授業の感想を話してもらいます。そのあと授業のまとめをして終了です。展覧会見学会の予定がある学校はここで告知をします。



【授業後の活動】

児童用の授業の振り返りのためのワークシートを用意しています。担任の先生には授業後のアンケートへのご協力をお願いしています。また「ふなばしアートカード」は学級の活動で使えるように、各学校にお渡しします。学校での鑑賞の授業でご活用ください。

◎児童の感想

- ・3つの絵をつなげて作る物語づくりでは、友達のおもしろい考えに、自分の考えを付け加えて、**唯一無二のストーリー**をつくることができました。
- ・みんなで話しているいろいろな意見があったので楽しかった。ファシリテーターさんがすごくわかりやすく教えてくれて、私も**いろいろな意見をアートカードの時に言えた**。
- ・アートカードの授業を受けたときは、これがどういう意味がこめられているのかということ
をずっと考えて、いろいろな考えにたどり着いて、**すごくおもしろくて、見学会がワクワク**
楽しみになりました。

◎教師の感想

- ・ふだん発言の少ない児童も、自分の感じたことなどをグループで共有していて、**生き生きとしている姿**がみられました。
- ・ファシリテーターの児童から出たつづやきを取り上げて、話題を広げようとする姿勢が素敵でした。少人数グループでの活動で**発言をたくさん取り上げ、認めてくださり、ありがたかった**です。
- ・子どもたちの発言を取り上げ、**内容を認めながら価値づけ**していくことで、生き生きと発表できると感じた。是非まねていきたいです。
- ・見学会の後、「美術作品をこんなに深く知れたのは初めて」と**子どもがキラキラした顔**で教えてくれました。

◎ファシリテーターの感想

- ・授業では、時間がかかったが、**児童は自分なりに言葉を選んで話**ができた。このような時間を繰り返すことで言葉が増えていくのではないかと手ごたえを感じた。
- ・発言は少なくとも終始一生懸命に言葉を探す児童たちの様子を見て、この授業は**感性を磨く貴重な時間**になると感じた。
- ・児童の話の引き出し方や絵を見る視点の誘導など進行全てにおいて、ファシリテーターの人間性や持ち味が大きく関係すると感じた。

■船橋市所蔵作品について

船橋市所蔵作品は船橋市が所蔵する美術作品のコレクションです。これらは清川記念館と清川家から寄贈された美術作品 184点（清川コレクション）が中心となっており、そのほか地域で活躍した芸術家や収集家より寄贈を受けた作品をあわせて、約 650点の美術品で構成されています。その特徴は以下の3点です。

①清川コレクション及びその代表的な作家である橋貞雄の作品、
関連資料群

②船橋ゆかりの芸術家による作品

③船橋ゆかりの収集家による美術コレクション

明治時代から現代にいたる船橋で生まれた美術作品が多く含まれている船橋市所蔵作品は、郷土の文化芸術を始め、その歴史や人々の暮らしを今に伝えるものになります。

■船橋市デジタルミュージアム

船橋市が所蔵する美術品や資料をデジタル化し、公開しているホームページです。ここでは江戸時代の浮世絵や絵本、船橋市の古写真や地図、暮らしのなかで使われた民具、美術作品、野外彫刻などを紹介しています。



■船橋市バーチャル美術館

市内で開催される展覧会や美術活動などを紹介する専用のホームページです。所蔵作品展や出張美術展の情報、教育活動の紹介、収蔵作家の紹介動画や船橋美術年表など、美術鑑賞を楽しむ様々なコンテンツを配信しています。



発行：船橋市民ギャラリー

〒273-0005 千葉県船橋市本町 2-1-1 船橋スクエア 21 ビル 3 階 Tel.047-420-2111